

## 9月25日（月）小浜キャンパス

## 10月16日（月）・10月24日（火）あわらキャンパスにて救命講習会を開催しました

### 【小浜キャンパス】

毎年、2年生の後期オリエンテーション後にAED研修を実施している。対象者は2年生81名他、教職員。今年度は、2年生13名、教職員7名が参加した。

### 【あわらキャンパス】

毎年、後期授業開始時に授業の一環としてAED研修を取り入れている。今年度は、10月16日・24日の両日で、1年25名、2年生28名の全学生が参加した。



小浜キャンパス（新校舎）の様子



講義を聞く創造農学科  
2年生



1年生

### 体が濡れていても感電しない？ （小浜c）

- ・ライフセーバー部の学生から、体が濡れている場合はどうしたら良いか？との質問があった。被救助者側の体はなるべく拭く。（パットが触れる部分とその周辺）地面など体の下は濡れていても大丈夫。  
**救助者は濡れていても、相手に触れなければ感電しない**と説明があった。
- ・心臓マッサージは、絶え間なく行うことが必要だが、AEDによるショックとショックの間の充電には2分かかる。2分間の心臓マッサージを体験した学生からは「しんどかった」との声が聞かれ、周囲の人と交替することの大切さを学んだ。  
また、119番通報時の司令室とのやりとりの模擬体験をさせてもらったことで、より濃い実践になったのではないだろうか。

### 医務室より（小浜c）

- ・新校舎での講習会となった。参加人数は、昨年より少なかったが、その分、救急救命士から大切な点を多く学ばせてもらった。
- ・積極的に質問しており、学生も納得していた様子だった。
- ・海に関することを学ぶ学科であり、救命救急のことは特に大切であると思うので、次は全員参加してもらえようようにしたい。

### 大勢の協力と心臓マッサージの継続 が大事（救急隊員）

- ・初期動作が大切で、倒れている人を見たら大きな声で「誰か、誰か」と大声で仲間を呼ぶ。小さい声では、聞こえないし来てくれない。できるだけ大声で、数名が来てくれるまで叫ぶことが大事。  
救命処置には、大勢の方の協力を得て行うこと。
- ・救急車が来て、安心して心臓マッサージをやめてしまいがちだが、**救命処置は、救急隊員が心臓マッサージを引き継げるまで手は止めず続ける**ことが大事。と説明があった。

### 学生：講習を重ねることで人命救助に 自信（あわらc）

- ・今回、救命研修は5回目だった。回を重ねて研修を受けたことで、倒れている人をみたら、人命救助をやれるという自信につながった。
- ・人命救助を行うには、まず人を集めることの大切さを学んだ。**また、体力が勝負だ**と思った。そのためにも協力する人を少しでも多く集めて、みんなで行うことが人命救助につながると思った。

創造農学科では、授業の一環として研修が行われているため参加者は毎年100%近い。現在では、小学校でAED研修を実施する所も多い。中学校や高校、自動車教習所で、応急救護の教習を受けるなどAEDに触れる機会は少なからずある。万が一の緊急事態に備えて日頃から身につけておくために、一人でも多くの学生に参加してもらいたい。